# 湘南医療大学 大学院

Graduate School of Shonan University of Medical Sciences

## 大学院案内

保健医療学研究科 保健医療学専攻【修士課程】

健康増進・予防領域
心身機能回復領域
助産学領域
医療・マネジメントエグゼクティブ領域

保健医療学研究科 保健医療学専攻【博士後期課程】

看護学領域
リハビリテーション学領域

# 湘南医療大学 大学院の理念

**湘南医療大学大学院は「人を尊び、命を尊び、個を敬愛す」の理念のもと、**
**人とのふれあいを通して、他者を思いやり、生あるもの全てに感謝し、**
**その人らしさを大切にする教育を実践し、すべての人々の幸せに役立つ人材の育成を目指します。**

湘南医療大学では、2019 年４月、高度専門職業人の養成を目的に大学院保健医療学研究科保健医療学専攻修士課程を開設し、さらに 2024 年４月に博士後期課程を開設しました。
「保健医療学」は、地域の保健・医療・福祉・教育に関する課題を科学的に探究し、解明していく学問であり、疾病を伴う人々の社会医療サービスの創造を目的とした実践の学問です。今日、保健・医療の現場では、患者や家族およびその生活形態が多様化・複雑化し、地域コミュニティ全体のシステム形成や、高度で専門的な医療技術、医療的ケアの実践が求められるようになり、まさに保健医療学分野に習熟した人材が重要視されるようになってきました。

そのような社会情勢の下に開設された本学の保健医療学専攻修士課程には、看護およびリハビリテーションを機能的に連携かつ協同できる学問分野として、「健康増進・予防」、「心身機能回復」、「助産」の３学問分野を設置しています。

また、超高齢化社会の進展に伴い、保健医療学においてさらなる創造性・多様性に満ちた研究・開発能力を有した「研究者」や、医療・保健施設、行政、地域で保健医療学分野の中心的役割を担える「高度専門職業人」、さらに保健医療学分野の大学において確かな教育・研究能力を備えた「教員」の養成が求められるようになりました。それに伴い、修士課程を修了した学生を対象に、更なる高度な専門性を身に付けた「研究者」・「高度専門職業人」・「大学教員」の養成を目的として３年の博士後期課程を開設しました。博士後期課程では、知のプロフェッショナルとしての人材が育成され、「看護学」「リハビリテーション学」それぞれに博士の学位を設定しています。

さらに、2025 年度より修士課程に新しく「医療・マネジメントエグゼクティブ」領域も新設しました。この領域は、他の領域とは異なり、医療経営に優れた管理職を養成する領域です。過酷な社会情勢を乗り越え、組織を躍進させる戦略的思考と問題解決能力を備えた、医療界の中核的人材として活躍するトップリーダーを育てます。

大学院研究科長 **喜多村 健**

湘南医療大学で学ぶ時間は、誇りある医療人としての人生の礎を築くための大切な時間です。本学を心のふるさととし、明日の保健・医療の先頭に立つ医療人をひとりでも多く育てたいと思っています。

## Main Contents


P1　大学院の理念
P2　大学院概要／学びの特色／サポート体制
P3　修士課程（健康増進・予防領域／心身機能回復領域）
P4　修士課程（助産学領域／医療・マネジメントエグゼクティブ領域）
P5　博士後期課程（看護学領域／リハビリテーション学領域）
P6 - 7　教員紹介（健康増進・予防領域／看護学領域／助産学領域／医療・マネジメントエグゼクティブ領域）
P8 - 9　教員紹介（心身機能回復領域／リハビリテーション学領域）
P10　在学生の声／施設紹介




# 大学院概要

| | |
|---|---|
| 研究科・専攻名 | 保健医療学研究科　保健医療学専攻 |
| 課程・領域名 | 修士課程（健康増進・予防領域、心身回復領域、助産学領域、医療・マネジメントエグゼクティブ領域）<br>博士後期課程（看護学領域、リハビリテーション学領域） |
| 定員 | 修士課程　１２名<br>博士後期課程　３名 |
| 修業年限 | 修士課程　２年<br>博士後期課程　３年 |
| 学位 | 修士課程　修士（保健医療学）<br>博士後期課程　博士（看護学、リハビリテーション学） |

※出願資格等、詳細につきましては、募集要項をご確認ください。

# 学びの特色

## 修士課程

地域において人々の健康増進と予防に関わる「健康増進・予防領域」、心身の機能回復と支援に関わる「心身機能回復領域」、助産ケアおよび母子支援の向上に関わる「助産学領域」、医療経営に優れた管理職を養成する「医療・マネジメントエグゼクティブ領域」の４領域を設置し、「保健医療学」として、地域の保健・医療・福祉・教育に関する課題を科学的に探究し解明していくことを目標としています。

**健康増進・予防領域**　**心身機能回復領域**　**助産学領域**　**医療・マネジメントエグゼクティブ領域**

健康増進・予防領域 取得可能資格
専門看護師「がん看護、感染看護」受験資格

助産学領域 取得可能資格
助産師国家試験受験資格

## 博士後期課程

保健医療学を基盤とする「看護学」と「リハビリテーション学」の２領域を設け、看護職およびリハビリテーション従事者対象に、さらなる創造に満ちた研究・開発能力を有し、多彩な研究が遂行可能な研究者や、医療施設、保健施設、行政、地域を保健医療学の実践に携わる多彩な職種の中で中心的役割を担える管理・指導力を有する高度専門職人、さらに保健医療学分野の大学において確かな教育能力と研究能力を兼ね備えた教員を育成します。

**看護学領域**　**リハビリテーション学領域**

※各領域の詳細につきましては、本学ホームページ等でご確認ください。

# サポート体制

## 働きながらでも学べる多様な環境

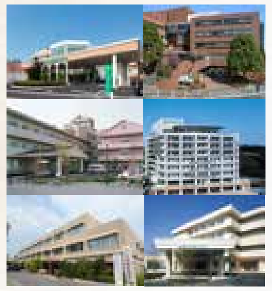
講義によっては平日の夜間（６・７時限）や土曜日に開講しているため、仕事との両立を図ることが可能な場合もあります。また、社会人など標準修業年限内での修学・研究が困難な場合でも、申請により履修期間を延長できる「長期履修制度」を設けています。（修士課程：助産学領域は除く）

**時間割**

| 時限 | 時間 |
|---|---|
| 1 限目 | 9：00～10：30 |
| 2 限目 | 10：40～12：10 |
| 3 限目 | 13：00～14：30 |
| 4 限目 | 14：40～16：10 |
| 5 限目 | 16：20～17：50 |
| 6 限目 | 18：00～19：30 |
| 7 限目 | 19：40～21：10 |

## 豊富なグループ病院が大学院生をサポート

本大学院は神奈川・東京・静岡に 17 病院、70 以上の医療・福祉施設をもつ「ふれあいグループ」の支援を受けています。これらの施設は本研究科生の助産学実習及び実践的な研究等の場として協力を受けています。また、実務経験豊富な医師、看護師、保健師、助産師、理学療法士、作業療法士、薬剤師など、多職種連携のもとで指導を受けて、在宅看護、高齢者・障害者支援、公衆衛生、精神保健、助産、女性保健、運動機能・脳機能・呼吸循環機能に対するリハビリテーション療法などの領域を中心に地域の包括的な支援・サービス提供体制に必要な学びと研究が可能となっています。



# 修士課程

Master's program

## 健康増進・予防領域

### 専門領域

保健医療福祉の制度に精通し、地域において多職種と連携協働しながら健康社会を支え、障害の予防や改善、生活再構築、そして地域社会における自立生活の安定化、QOL（生活の質）の維持・向上を目指した実践の有効性を探求する研究を行うとともに、高度な専門性が求められる職業を担うために必要な能力を養います。

### 多職種・他職種的な視点が獲得できる科目群

科目群の多くは看護師を対象としていますが、他職種の視点から内容が学べる科目もあります。
チーム医療の有用性が普遍的になった昨今において、「多」職種及び「他」職種の視点は重要です。
他職種の視点は共通科目外においても開講され、チーム医療で活躍できるマインドを育成します。

### 実習やフィールドワーク、ディスカッションを含めたライブ感あふれる講義

専門科目では専門書や学術論文の精読や要約レベルで終わることが無いように、フィールドワークやディスカッションという教育方法を通して恒常的に実施しています。また、がん看護学・感染看護学では実習も行われ、先端的な知識技術の習得や専門看護師として必要な能力の育成も可能です。フィールドワークや実習は受講者の勤務状況も考慮して行われます。

### 高度実践看護師（がん看護学・感染看護学）に関する受験資格が取得可能

がん看護学・感染看護学の臨床・教育・研究分野でトップランナーを務めてきた本学教員を中心として、教育研究指導をします。1年次後期以降に開講される学外実習は、専門医療施設にて行います。修了後も専門看護師資格取得に向けた各種サポートを行い、万全の体制で専門看護師資格の取得を応援します。

## 助産学領域

### 専門領域

周産期医療の高度化および多様なニーズに対して、研究的な課題解決能力と高度専門的な状況判断と助産ケアを修得できること、同時に出産施設と地域を連結して継続支援できる高度専門職業人（助産師）の基礎を修得する能力を培います。

### 少人数 × 対話型を重視したアカデミックな教育体制

助産学領域は助産師国家試験受験資格を取得し、将来の助産師としても活躍できる素地を養育するために、定員４名という他の教育機関と比較して少人数の教育体制を整えています。そのため、自ら考え行動し、積極的に教員と意見を交換する対話型の講義・演習がメインとなります。また、実習と研究指導を両立させるために座学講義の多くは日中に開講します。

### 助産師としての能力・措置を最大限に高める実践的なカリキュラム

助産学領域では妊娠・分娩・産褥各期の診断、助産実践などの基礎的な素地を学ぶ科目はもちろん、多職種連携や地域における専門職の役割、在日外国人とその家族への支援、助産院開業と運営のノウハウ、諸外国の文化・慣習別の支援方法など、助産師を取り巻く幅広い状況に対応することができる実践的なカリキュラムを設けています。

### ふれあいグループの医療設計を十二分に活用する助産学実習

座学での講義・演習の集大成たる助産学実習は、本大学院が属する「ふれあいグループ」の医療施設を中心に実施しています。その多くが地域に根差した医療機関として評価を受けており、トータルで500時間にも及ぶ実習を受ける場所としては最適です。指導にあたっては、本学の教員と各病院の医療従事者と看護部教育担当が強力に連携して実習指導を対応します。

## 心身機能回復領域

### 専門領域

精神・心身機能を総合的に評価し、これらの障害の課題を解決可能とする研究能力を獲得し、障害克服の実践的な支援を修め、高度専門性が求められる職業を担うための卓越した能力を培います。運動・動作制御学や呼吸循環機能学、運動機能回復学、脳機能回復学等分野の先行研究やフィールドワークで課題を探求し、科学的・論理的思考かつ実践力を培います。

### 医学とリハビリテーション学双方の見地から検討する講義

人間の生活や行動をつかさどる運動機能や呼吸器・循環器・脳機能などの分野について医学的見地・リハビリテーション学的見地双方から検討を試みます。解剖学やロボット工学、スポーツ医学や神経科学の知見も取り入れるなど、幅広い視野で研究・分析を行っていくため、多面的なアプローチにもとづいた研究や分析が行えるようになります。

### グループとしてのスケールメリットを利用する充実した指導陣

専門科目の講義を担当する教員は本学の専任教員が、授業を担当します。
最新の医療技術や実践的なアプローチによる充実した講義が受けられます。また、よりライブ感あふれる講義とするために、学内やグループ内施設の設備や機器を利用しての授業が行われます。

### 領域を超えた科目履修により、多面的な視点を得る事ができる

本大学院研究科は、保健医療学としてリハビリテーション学にとどまらず看護学的な視点も得られることが特徴です。健康増進・予防領域で開講される科目の受講を加えることにより、通所リハビリテーションや地域生活支援に関する諸問題についても視野が得られます。将来、技士として希望する分野で活躍できる能力を伸ばすことが可能です。

## 医療・マネジメントエグゼクティブ領域

### 専門領域

本領域は、未来の医療界を担うトップリーダーを育てるために、最高の講師陣を結集して作られた特別な領域です。講師は、原則対面講義を行いますので、直接指導を受けられるほか、さまざまな人脈と可能性を得られることがこの領域の特色です。組織管理者に求められる、あらゆる能力と知識、技術を習得させ、医療界の中核として活躍する人材を育成します。

### 社会で活躍するリーダーをより優秀なトップリーダに養成

学生は既に社会で活躍している管理職及び将来それが期待されている素養豊かな者を対象としています。厳選された学生に対し、その業界を代表する優れた講師陣が内容の濃い講義を行うことによって質の高い厳格な教育を実現します。

### 対面講義で心のふれあいを重視

専門科目は、全て対面講義で行われています。AI化が進み、教育も遠隔講義が主流となった社会の中、この領域は直接言葉を交わし、心を通わせながら生きた知識を伝授することを理念の一つとしています。熟練した講師陣によって将来の医療界を担うリーダーに技や精神が受け継がれていきます。

### オムニバス形式による、凝縮された無駄のない講義

15コマに分けて講義される内容から全て無駄を省き、凝縮された1コマを作成していただき、それを講師15人分数珠繋ぎすることによって15コマで225コマ分の知識を得ようというのが、このコースのコンセプトです。複数の講師陣から毎時間内容の濃い講義を受講することによって短時間に非常に効率良く学習することが可能となっています。

# 博士後期課程

## 看 護 学 領 域

### 専門領域科目

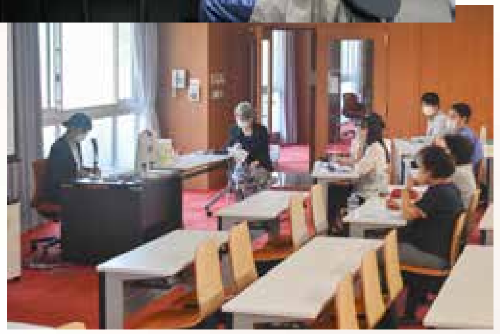
看護学領域では、専門的な知識や技術を有し、看護学における研究をさらに深化させる探究心と洞察力を備え、独創性や自立して研究を行える能力と発信力を身につけた研究者、看護系大学における教育者、臨床管理・臨床指導能力を身に付けた高度専門職業人として社会を牽引できる人材を育成します。

### 多面的な知のプロフェッショナルを目指す

看護学領域では、看護研究を通じて地域社会・医療において看護ケア価値を形成するために必要な実践力を育成します。具体的には、看護ケアの課題設定と設計、看護ケア形成と決定、ケアの実施と管理、看護ケア評価を行うために、創造性と多彩性を備えた専門的、実践的により高度なレベルでの理論と方法を身につけた上で、看護プロセスの各段階でそれぞれの役割を理解するとともに、現在の地域医療体制を批判的に検証し、地域に必要な看護ケアの形成と実現を探求する力を身に付けます。

### 実習やアクティブ・ラーニング、ディスカッションを含めたライブ感あふれる講義

授業では、講義・演習・実習などの教授形態に応じて、アクティブ・ラーニングや体験型学習などを適宜組み合わせて行います。
様々な研究分野においてプロフェッショナルである教員だけでなく、学生同士が講義を通して交わることにより、看護領域における研究能力だけでなく、コミュニケーション能力に卓越し、多職種協働における管理や指導能力を有した研究者・教育者・高度専門職業人を育成します。



### 幅広い研究分野

- 健康支援ケアシステム学
  臨床看護領域のケアの目的である実践的な健康支援の課題について、学際的な視点から探求し、必要な理論、実践方法を修得します。
- 地域生活ケアシステム学
  地域生活看護領域のケアにかかわる地域マネジメントとケースマネジメント及び協働能力等のケア能力に必要な理論・実践方法を修得します。
- 生涯発達ケアシステム学
  人々のライフサイクルに基づいた、各世代性別における人々の健康の諸課題を解明し、生涯発達看護領域のケアなどに必要な理論・実践方法を修得します。

## リハビリテーション学領域

### 専門領域科目

リハビリテーション学領域では、専門的かつ高度な知識や技能を有し、リハビリテーション学研究を深化させる研究心と独創性及び洞察力を備え、自立して研究を行い得る能力や臨床管理・臨床指導能力を身に付けた教育者、研究者、高度専門職業人として社会を牽引できる人材を育成します。

### 幅広い知識を修得した知のプロフェッショナルを目指す

リハビリテーション学領域では、生活の視点に立って、疾患、障害、機能とそれらに関わる医学、職業、社会、教育、工学、相互作用などの多様性を理解し、利用者及び患者が、その人らしく生きることができる「日常の回復と再生」と「リハビリテーションサービスの制度化」が構成する主体的関係性（患者が主体的に療法士と行う）と受態的関係性（療法士が患者の自立を抑制する）が平衡状態の中で、急性期、回復期、維持期を踏まえた新たな地域リハビリテーションにおける形成を探究する事ができる実践力を身に付けます。

### 豊富な臨床経験を有する教員によるリハビリテーション実践課題を研究する授業

リハビリテーション学領域では、身体機能支援医療学特論及び身体機能支援医学演習、地域生活支援学特論及び地域生活支援学演習を科目として設置して、心身機能障害を抱える対象者の諸問題と解決方法論について、幅広い知識と技術を備えた臨床経験豊かな教員が教育を担当する事が特徴です。受講生の誰もが感じているリハビリテーション領域における身近な問題について、様々な角度から議論し、問題解決に向けた方法論について協議し、リハビリテーションの未来へと繋ぐ授業を展開します。

### グループとしてのスケールメリットを利用する充実した指導陣

専門科目の講義を担当する教員は本学の専任教員はもちろん、神奈川・東京を中心に病院や福祉施設を展開するふれあいグループの現役医療従事者が教員として授業を展開します。最新の医療技術や実践的なアプローチによる充実した講義が受けられます。また、よりライブ感あふれる講義とするために、学内やグループ内施設に設けられた専門的な設備や機器を利用しての授業も行われます。



# 教 員 紹 介

Faculty introduction

## 主な研究テーマ

健康増進・予防領域　看護学領域　助産学　医療・マネジメントエグゼクティブ領域

### 川本 利恵子 副研究科長・教授

専門領域　健康増進・予防領域

- 看護師の看護の専門性とケア実践能力の検討
- 下部直腸癌で肛門温存手術を受けた患者の自尊感情と QOL の関連性の検討
- 「一般病棟におけるがん患者の家族ケア実践評価スケール」の活用

専門領域　看護学領域

- 健康問題を抱える人の生活を支援する看護実践ケアに関する研究
- ナーシングワークの変容と継続教育に関する研究
  医療提供体制が及ぼす看護実践力の影響に関する研究

### 相澤　恵子 准教授

専門領域　健康増進・予防領域

- Child- and Family-Centered Care を推進するための看護管理に関する研究
- 看護の質向上に資する組織文化の醸成に関する研究
- 看護管理学教育における実践的学習の設計と評価に関する研究

### 石川　眞里子 教授

専門領域　健康増進・予防領域　看護学領域

- 小児慢性疾患のトランジションストーマリハビリテーション

### 牛田　貴子 教授

専門領域　健康増進・予防領域

- 高齢者ケア施設に勤務する（した）看護師の看護実践力について
- 予防的家族看護介入について
- 老年看護学の授業のしかけについて

専門領域　看護学領域

- 家族看護介入に関する研究
- 高齢者ケア施設における多職種連携に関する研究
- 老年看護学の教授方略に関する研究

### 碓井　瑠衣 准教授

専門領域　健康増進・予防領域

- ヘルスリテラシーと過体重・肥満の関係に関する研究
- スマートフォンを活用した減量プログラムの開発－資源が乏しい地域を対象に－

### 片山　典子 教授

専門領域　健康増進・予防領域　看護学領域

- 早期精神病の早期介入に関する研究
- 精神科訪問看護に関する研究
- アディクション看護に関する研究

### 倉田　慶子 教授

専門領域　健康増進・予防領域

- 重症心身障害がある子どもと家族への看護について
- 在宅療養をする医療的ケアが必要な子どもと家族への多職種連携について
- 重症心身障害者と共に生きる母親のアドバンス・ライフ・プラン（ALP）について

# 教員紹介
Faculty introduction
## 主な研究テーマ

心身機能回復領域
リハビリテーション学領域

### 小林　紀明 教授

専門領域　健康増進・予防領域

- 介護支援専門員のケアマネジメントにおける「協働的能力」に関する研究
- 介護支援専門員の協働的能 ENDCOREs および CICS29 との関連
- 介護支援専門員の協働的能力とワークエンゲージメントに関する実証的研究

### 松島　正起 教授

専門領域　健康増進・予防領域

- 看護師の観察について視線分析を用いた研究観察の教育方法について

### 山勢　善江 教授

専門領域　健康増進・予防領域　看護学領域

- 救急・クリティカルケアにおける終末期看護
- 救急・クリティカルケアにおける患者と家族へのケア
- 災害急性期看護

### 渡部　節子 教授

専門領域　健康増進・予防領域

- 病院内における感染対策について
- 地域における中小病院及び介護保険施設に対する感染対策支援体制

専門領域　看護学領域

- 感染管理及び感染看護ケアとしての問題解決に向けたケアバンドルやケアプログラムの開発
- 地域における感染管理支援システムの開発

### 菅河　真紀子 准教授

専門領域　医療・マネジメント エグゼクティブ領域

- 介護事業政策
- 医療教育
- 血液事業政策
- 国際血漿分画製剤事業政策
- 医療計画
- 救急・僻地、災害医療政策

### 清水　奈緒美 准教授

専門領域　健康増進・予防領域

- 終末期がん患者の医療連携について
- がん専門相談員の教育について
- 緩和ケアに携わる看護職の実践について

### 村嶋　幸代 教授

専門領域　健康増進・予防領域　看護学領域

- 地域包括ケアのシステム構築に関する研究
- 保健師の人材育成に関する研究
- 訪問看護の評価に関する研究

### 渡邉　眞理 教授

専門領域　健康増進・予防領域

- がん患者を対象とした看護師による医療連携の調整に関する研究
- 高齢がん患者の意思決定支援の困難感と課題
- 高齢がん患者の意思決定を支援する看護師に対する教育プログラム作成

### 山﨑　圭子 教授

専門領域　助産学領域

- 「産後の疲労感」のセルフモニタリングによるセルフコントロールと抑うつの評価
- マインドフルネスとファミリースキルトレーニングによる産後うつ病の予防効果の検討
- 沖縄の産後慣習から捉える多文化共生社会に貢献する助産の探求

専門領域　看護学領域

- 妊娠・出産・育児期のセルフモニタリングとセルフケアに関する研究
- 女性の健康問題に関する研究
- 不妊治療を経験した女性へのケアに関する研究

### 田邉　浩文 副研究科長・教授

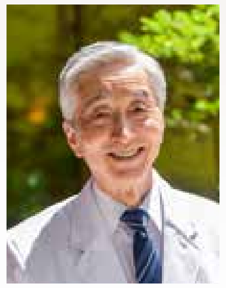
専門領域　心身機能回復領域

- 中枢神経疾患患者に対する行動心理学的介入の効果について
- 運動機能障害を伴う中枢神経疾患患者に対する間葉系幹細胞投与後のリハビリテーション介入効果の検証
- 音楽家のフォーカルジストニアのリハビリテーション研究

専門領域　リハビリテーション学領域

- 再生医療による効果的な心身機能回復リハビリテーションプロトコルに関する研究
- 音楽家のフォーカルジストニアに関する臨床病態学およびリハビリテーション方法論に関する研究
- 中枢神経疾患に対する行動心理学的アプローチに関する臨床研究

### 鶴見　隆正 教授



専門領域　心身機能回復領域

- 脳卒中片麻痺者に対する早期長下肢装具療法に関する研究
- 障害児の就学前・就学に係るリハビリテーション支援
- 地域における健康増進活動

### 池田　晋平 教授

専門領域　心身機能回復領域

- 高齢者の生活行為と心身の健康・ウェルビーイングの関連に関する研究
- 高齢者の社会経済的背景および社会的ネットワークに関する研究
- 地域における住民主体の健康づくりや世代間交流の実践に関する研究

### 大森　圭貢 教授

専門領域　心身機能回復領域　リハビリテーション学領域

- 高齢者における動作獲得に関する研究
- リアルタイムフィードバックを用いたトレーニング効果に関する研究
- モンゴル国高齢者の生活機能に関する研究
- 低ストレスで行える身体運動機能評価に関する研究

### 坂上　昇 教授

専門領域　心身機能回復領域

- 脳性麻痺児の脳病変について
- 理学療法評価の検証
- 発達障害児の脳病変について

### 櫻井　好美 准教授

専門領域　心身機能回復領域

- 各種の動作障害予防・改善のためのバイオメカニクス
- 転倒回避のためのバイオメカニクス
- 高齢者の尿失禁の改善と社会参加

### 柴田　昌和 教授

専門領域　心身機能回復領域

- 人体における体幹筋や四肢筋の加齢変化や性差についての研究
- 中殿筋前部線維・後部線維の形態的特徴の考察について
- ヒト孤束核の形態学的評価

## 杉村　直哉 准教授

専門領域　心身機能回復領域

・メンタルヘルス疾患により休業する労働者の職場復帰支援に関する研究
・産業保健分野における作業療法リソースの新たな戦略に関する研究
・職場のメンタルヘルス対策と健康増進活動に関する研究

## 鈴木　雄介 教授

専門領域　心身機能回復領域

・高次脳機能障害に対する効果的なリハビリテーション方法の開発
・高次脳機能障害を持つ当事者とご家族への支援
・リハビリテーション対象患者の予後等に対する関連因子の検討

専門領域　リハビリテーション学領域

・社会的行動障害の症状を有する脳損傷患者の家族介護者への包括的な支援プログラムの構築
・高次脳機能障害者への地域生活支援と課題解決に関する研究
・外傷性脳損傷患者の社会的行動障害への対応方法に関する研究

## 増田　雄亮 准教授

専門領域　心身機能回復領域　リハビリテーション学領域

・リハビリテーション医療における意思決定・エビデンスに基づく実践に関する研究
・神経科学を基盤とした脳卒中後の上肢・ADL.障害に対するリハビリテーション研究
・リハビリテーション科学分野における医療・心理統計手法と尺度開発研究

## 三川　年正 准教授

専門領域　心身機能回復領域

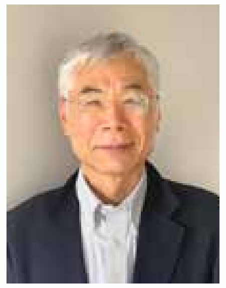
・身体疾患後のうつ病に対するリハビリテーション
・リハビリテーション学生の動機付けについてトピックモデルを用いた質的データ分析

## 森尾　裕志 教授

専門領域　心身機能回復領域　リハビリテーション学領域

・高齢心疾患患者の下肢筋力、およびバランス能力と歩行能力に関する研究
・日常生活に必要な筋力水準について高齢入院患者における歩行速度と歩幅の関係

## 山田　拓実 教授



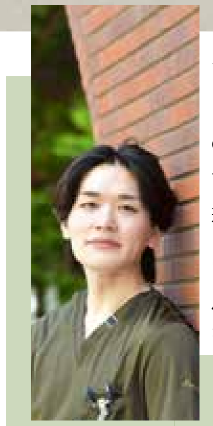
専門領域　心身機能回復領域　リハビリテーション学領域

・介護予防・転倒予防運動プログラム　荒川ころばん体操の開発と普及活動
・人工膝関節の歩行解析
・超音波診断装置や MRI による画像や、マルチ生体電気インピーダンス・法を用いたフレイル・腰痛・運動習慣の研究

*Hello new future...*

# 在学生の声
STUDENT VOICE

### Voice1



**働きながら専門性を磨く**
**感染症看護専門看護師への挑戦**

COVID-19の大流行を経験する中で、感染症に罹患した患者さんや、そのご家族を支えられる看護師になりたいと思い、感染症看護専門看護師の養成課程がある本学を選びました。専門看護師のコースではありますが、充実した研究指導を受けられることが本学の魅力です。現在は、COVID-19関連の隔離が患者さんの機能回復に与える影響をテーマに研究しています。私は3年間の長期履修制度を選択していますが、週に2回ほどの通学で働きながら無理なく学ぶことができています。

修士課程 保健医療学研究科
健康増進・予防領域
髙津 夢翼 さん

### Voice2

**リハビリに“楽しさ”を**
**ゲーミフィケーション研究の最前線**

私は修士課程でも本学の先生にご指導いただき、そのご縁で入学しました。本学はふれあいグループを母体とし、関連施設での体力測定会など学外活動が充実しており、他では得難い経験が可能です。現在は急性期病院の患者様に対し、ゲーミフィケーションを導入した自主練習が身体機能に与える影響を検証中です。
楽しさを取り入れ運動継続を支援する方法を模索しています。仕事との両立は職場や先生方の理解に支えられています。

博士後期課程 保健医療学研究科
リハビリテーション学領域
大内 佑太 さん

### Voice3

**専門的な知識と温かなケアで、**
**安心できる妊娠・出産を支えたい**

私は助産師を目指して、湘南医療大学看護学科に入学しました。在学中に大学院助産学領域の先生方と関わる中で助産学への関心を深め、また、看護師として臨床経験を積みながら、看護の基礎を身につけたいという思いを尊重していただける環境に魅力を感じ、本大学院への進学を決意しました。現在は、妊産婦の出産満足度向上に向けた助産ケアや支援について学んでいます。将来は、疾病や合併症を抱える妊産婦にも寄り添い、安心して妊娠・出産・育児に臨めるよう支援できる助産師を目指しています。

修士課程 保健医療学研究科
助産学領域
髙橋 愛佳 さん

### Voice4

**組織を支える力を、**
**組織を導く力へ。**

事務職員として「支える」だけでは越えられない壁に直面し、不可欠となる広い視野と経営マネジメント能力を身に着けるため、本領域への進学を決意しました。本学で学ぶ何よりのメリットは、修了後に明確なキャリアパスが示されていること、そして各界を代表する先生方から直接指導を受けられるという、他に類を見ない教育環境です。仕事との両立は正直大変ですが、この恵まれた環境が大きなモチベーションになっています。職種も年齢も違う学友との議論では、自分の考えの浅さを思い知らされることも。でも、その悔しさや刺激こそが、自分を成長させてくれると実感しています。

修士課程 保健医療学研究科
医療・マネジメントエグゼクティブ領域
福田 充宏 さん

# 施設紹介
FACILITY INTRODUCTION

①図書館　②食堂　③4階エントランスホール　④大講義室　⑤助産学演習室　⑥1階エントランスホール　⑦大学院講義室（大）　⑧大学院講義室（小）
⑨大学院生研究室（修士課程）　⑩ 大学院生研究室（博士後期課程）　⑪ 体育館

2026 年発行

# アクセス
Access

# 問い合わせ
Information


湘南医療大学 大学院
〒244-0806 神奈川県横浜市戸塚区上品濃 16-48
TEL：045-821-0111
大学 HP：https://sums.ac.jp/
大学院ページ：https://sums.ac.jp/html/graduate_school/


大学院ページ

大学HP